

# 2024年度第3四半期決算説明会

---

2025年2月6日

# 業績概要

越路 和朗

チーフ ファイナンシャル オフィサー

## 2024年度 第3四半期決算サマリー

海外地域の堅調な推移がジクアスLX等の影響を吸収し、通期予想に対して順調に推移  
中長期的な収益見通しを勘案し、増配を決定

### ■ 2024年度第3四半期実績

- 売上収益：前年同期比-0.0%（2,228億円） / 対通期予想進捗率74%
- コア営業利益：前年同期比-11.4%（437億円） / 同上 79%
- 親会社帰属四半期利益：前年同期比+3.2%（275億円） / 同上 85%

### ■ 事業関連Update

- ジクアスLX：原因特定、対応策等、着実に進捗。当局への相談準備中
- 中長期成長：STN1012700（近視）の日本承認、STN1013800（眼瞼下垂）の日本申請

### ■ 通期の見通し

- 業績予想：順調な進捗だが花粉の飛散等変動要因を考慮し予想は修正せず
- 配当予想：期末配当19円、年間36円/株に増配。累進配当方針に基づき来期年間38円/株へ

USD (円)	143.61	152.63
EUR (円)	155.60	164.96
CNY (円)	20.07	21.33

## 四半期利益は増益で着地

(単位：億円)	2023年度 第3四半期		2024年度 第3四半期		
	実績	対売上 収益比率	実績	対売上 収益比率	対前年同期 増減率
<b>売上収益</b>	<b>2,228</b>	-	<b>2,228</b>	-	<b>-0.0%</b>
売上原価	914	41%	976	44%	+6.8%
<b>売上総利益</b>	<b>1,314</b>	<b>59%</b>	<b>1,251</b>	<b>56%</b>	<b>-4.8%</b>
販売費及び一般管理費	641	29%	647	29%	+1.0%
研究開発費	180	8%	168	8%	-7.1%
<b>コア営業利益</b>	<b>493</b>	<b>22%</b>	<b>437</b>	<b>20%</b>	<b>-11.4%</b>
ノンコア費用	10	0%	-	-	-100.0%
製品に係る無形資産償却費	71	3%	66	3%	-6.3%
その他の収益	14	1%	4	0%	-71.9%
その他の費用	64	3%	22	1%	-65.5%
<b>営業利益</b>	<b>362</b>	<b>16%</b>	<b>352</b>	<b>16%</b>	<b>-2.7%</b>
金融収益	13	1%	14	1%	+8.9%
金融費用	10	0%	13	1%	+34.1%
持分法による投資損失	29	1%	-	-	-100.0%
税引前四半期利益	336	15%	353	16%	+5.2%
法人所得税費用	70	3%	80	4%	+14.1%
(税負担率)	21%	-	23%	-	+1.7pt
<b>四半期利益</b>	<b>266</b>	<b>12%</b>	<b>273</b>	<b>12%</b>	<b>+2.9%</b>
親会社帰属四半期利益	266	12%	275	12%	+3.2%
コア四半期利益	396	18%	338	15%	-14.7%

### 主な前年同期比差異要因

#### 売上収益：-0.0%

- 海外事業（中国・アジア・EMEA）  
：前年同期比+9%、為替影響抜き+3%

#### 売上総利益：-4.8%

- 地域/製品構成等により原価率が対前年同期比上昇

#### 営業利益（コアベース）：-11.4%

- 販管費：為替影響を吸収しほぼ横ばい
- 研究開発費：臨床試験の状況、及び、費用最適化により対前年同期比減少

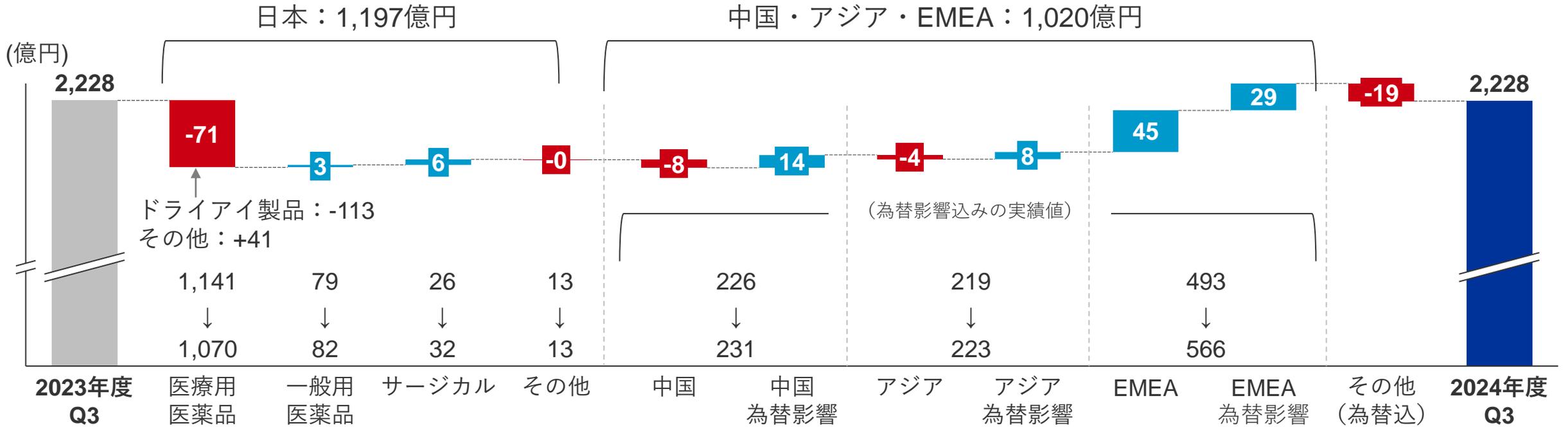
#### 営業利益（IFRS）：-2.7%

- 構造改革は前年にほぼ完了。関連一過性費用は今年度減少

#### 四半期利益（IFRS）：+2.9%

- 今期第3四半期までは持分法投資損失の発生なし
- 一過性要因を除いた税率：21.1%

# 製品供給影響などの減収要因を、日本の他品目および EMEAの一過性収益を含む堅調な推移によりカバーし前年水準を維持



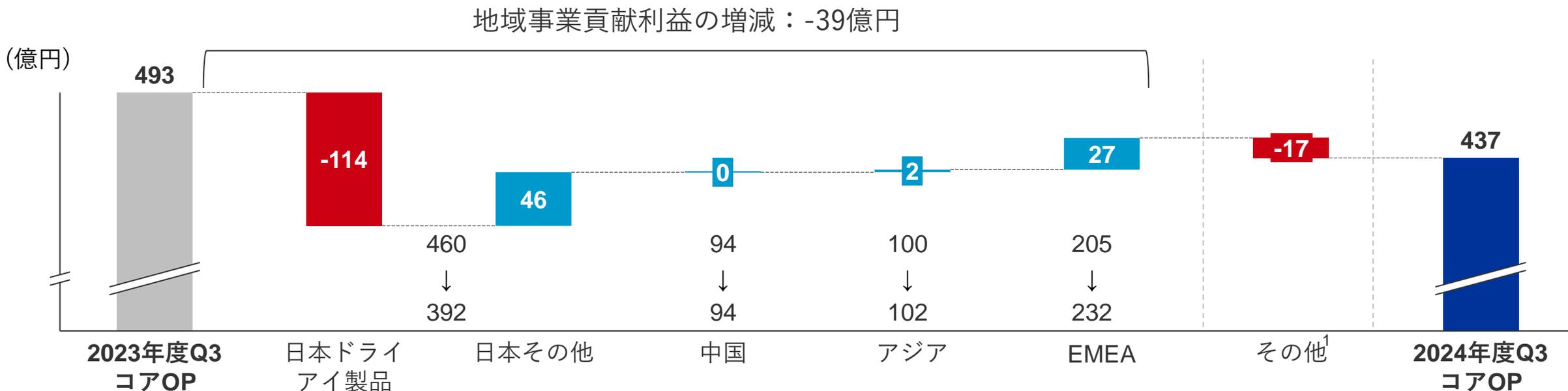
日本 対前年同期 -5.0%：薬価改定やジクアスLXの自主回収に伴う影響を他品目でカバー。選定療養などの影響は期初想定範囲内

中国 対前年同期 +2.3%（為替影響除外 -3.7%）：マルチチャンネル品やタプロスを中心に堅調に推移も、ジクアスのVBP、及び製品供給（対前年約-13億円）が影響

アジア 対前年同期 +1.5%（為替影響除外 -2.0%）：主要市場で緑内障やドライアイ製品が堅調に推移も、製品供給（対前年約-4億円）や韓国医師ストライキ等が影響

EMEA 対前年同期 +14.8%（為替影響除外 +9.1%）：緑内障防腐剤フリー製品や新製品、ドライアイ製品の伸長に加え、導出による一過性収益も貢献

## コスト最適化や一過性収益の貢献によりジクアスLXの影響を一部吸収



地域事業  
貢献利益の増減

---

その他増減

日本  
 ドライアイ製品：薬価改定やジクアスLXの自主回収による売上減少、ジクアスLX回収関連費用等  
 (2024年度 薬価改定率 ジクアス：-32%、ヒアレイン0.1：-10%)  
 その他：他領域の堅調な推移や、販管費の削減等

海外 (為替影響込み)  
 中国：ジクアスのVBP影響による利益率の低下や製品供給影響はあるが、前年同水準の利益を確保  
 アジア：製品供給影響等はあるが、増益を確保  
 EMEA：堅調な売上推移に加えて、導出による一過性収益も寄与

米州医薬品販売事業の合理化を含む構造改革の効果はあるが、為替影響などによる費用増加が影響

6 1 各地域およびグローバルでのR&Dや間接部門等の費用等、および上記以外の地域に関連する貢献利益

USD (円)

144.80

155.00

EUR (円)

156.88

165.00

CNY (円)

20.24

21.30

## 通期業績予想に対して超過基調で推移

(単位：億円)

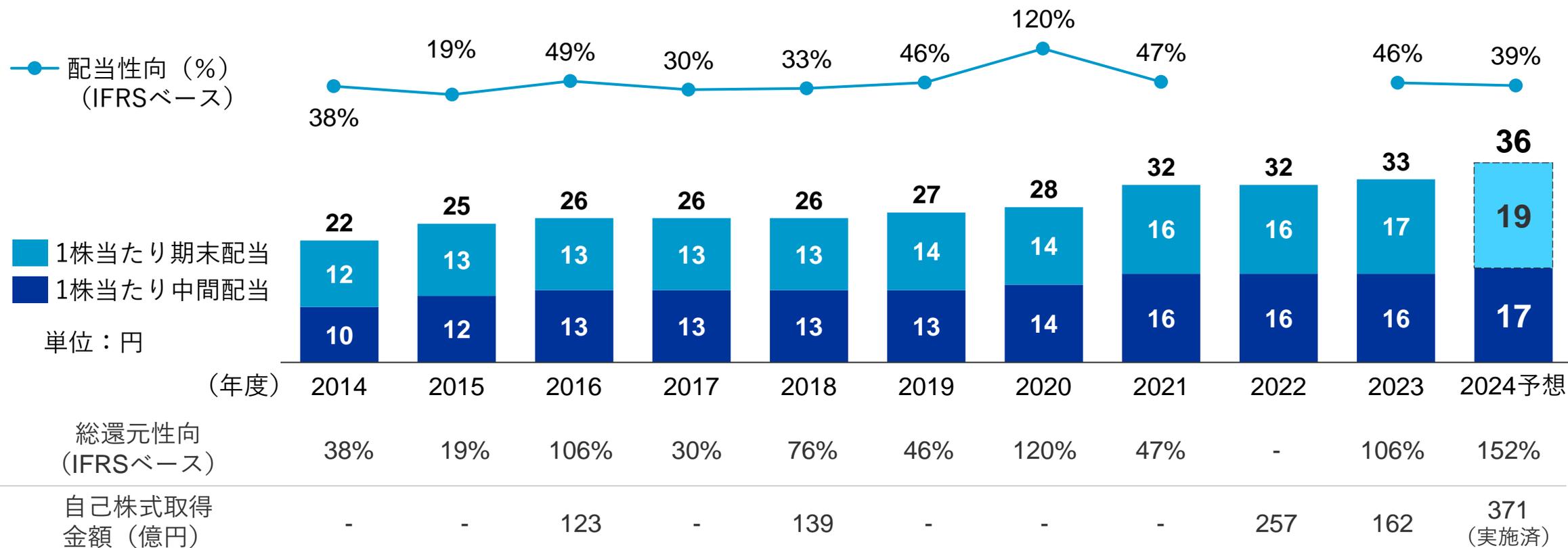
	2023年度		2024年度			
	実績	対売上 収益比率	予想 (8/6)	対売上 収益比率	対前期 増減率	第3四半 期進捗率
<b>売上収益</b>	3,020	-	<b>3,020</b>	-	<b>+0.0%</b>	<b>74%</b>
売上原価	1,231	41%	1,290	43%	+4.8%	76%
<b>売上総利益</b>	1,789	59%	<b>1,730</b>	<b>57%</b>	<b>-3.3%</b>	<b>72%</b>
販売費及び一般管理費	908	30%	910	30%	+0.2%	71%
研究開発費	253	8%	270	9%	+6.9%	62%
<b>コア営業利益</b>	628	21%	<b>550</b>	<b>18%</b>	<b>-12.4%</b>	<b>79%</b>
ノンコア費用	10	0%	-	-	-100.0%	
製品に係る無形資産償却費	95	3%	88	3%	-7.1%	
その他の収益	15	1%	7	0%	-54.8%	
その他の費用	153	5%	24	1%	-84.3%	
<b>営業利益</b>	385	13%	<b>445</b>	<b>15%</b>	<b>+15.5%</b>	<b>79%</b>
金融収益	16	1%	20	1%	+27.2%	
金融費用	27	1%	15	0%	-43.7%	
持分法による投資損失	76	3%	-	-	-100.0%	
税引前当期利益	299	10%	450	15%	+50.6%	78%
法人所得税費用	32	1%	115	4%	+262.6%	
(税負担率)	11%	-	26%	-	-	
<b>当期利益</b>	267	9%	<b>335</b>	<b>11%</b>	<b>+25.5%</b>	<b>82%</b>
親会社帰属当期利益	266	9%	325	11%	+22.0%	85%
ROE	9%		11%			
コアROE	16%		14%			
コア当期利益	485	16%	413	14%	-15.0%	82%

### 通期業績への影響項目

- 日本：花粉飛散動向
- 海外：想定を上回る為替変動
- コスト最適化
- 期末に向けたコア下項目の変動

## 累進配当方針に基づき、2024年度期末配当予想を1株当たり19円に増額

- 中長期的な収益の見通しなどを総合的に勘案し、増配を決定
- 2022年度以降、発行済株式総数の約16%、790億円の自己株式を取得



# 研究開発アップデート

ピーター・サルスティグ  
チーフ メディカル オフィサー

# 近視・眼瞼下垂は、承認や申請など上市に向けた最終ステージへ移行 既存疾患領域においても、後期開発パイプラインで多くのマイルストーンを達成

新規疾患領域	アトロピン硫酸塩 STN1012700/01 リジュセアミニ	近視	日本で、承認 欧州で、2024年3月に申請済み アジアで、申請準備を開始
	オキシメタゾリン塩酸塩 STN1013800	眼瞼下垂	日本で、申請 欧州でのP3試験で、FPI <sup>1</sup>
	AFDX0250BS STN1013400	近視	日本でのP2a試験で、LPO <sup>2</sup>
既存疾患領域	ラタノプロストカチオニック乳化点眼剤 STN1013001 Catiolanze	緑内障	アジアで、申請
	ネタルスジルメシル酸塩 STN1013900 Rhopressa®/Rhokiinsa®	緑内障	日本でのP3（長期投与）試験にて、 長期的な安全性と有効性を確認
	エピナスチン塩酸塩（1日2回点眼） STN1011403	アレルギー性 結膜炎	中国でのP3試験で、主要評価項目達成
	オミデネパグ イソプロピル STN1011702 エイベリスミニ	緑内障	中国でのP3試験で、FPI
	ネタルスジルメシル酸塩/ラタノプロスト STN1014003 Rocklatan®/Roclanda®	緑内障	日本で、P3試験準備を開始

近視：STN1012700（リジュセアミニ、アトロピン硫酸塩水和物）

# 日本初となる近視進行抑制点眼剤リジュセアミニ点眼液 0.025%の承認を日本で取得

薬価基準未収載医薬品として2025年4～5月に発売予定。

自由診療のため、患者さんへの販売価格は各医療機関が設定。



眼科スペシャリティ・カンパニーとして、科学的知見に基づいた製品および情報の提供を通じて小児近視の増加という社会課題の解決に貢献

## リジュセアミニ点眼液 0.025%

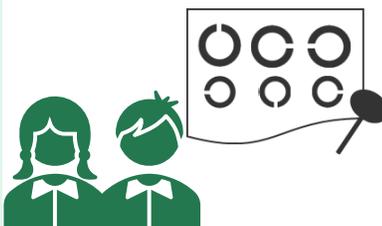


- 通常、1回1滴、1日1回就寝前に点眼
- 1回使い切り製剤
- 防腐剤フリー処方
- 年齢の制限は添付文書上設けられていないが基本的には小児が対象

## 疾患、診断、治療に関する情報

学校

健康診断での視力検査



医療機関

検査・診断

- 適応患者の確認

治療開始

投与後初回  
受診

- 処方後  
1週間～1か月以内

投与後2回目以降  
受診

- 処方後  
3～6か月毎

治療終了時期の  
検討

- 10代後半まで  
治療継続が望ましい

日本での環境やInternational myopia instituteが作成した[IMI臨床近視抑制法ガイドライン](#)などに基づき一般的に想定されるフローを示しています。

11 実際は患者さんの状況や医師の判断により変わります。

# 主要評価項目を達成したP3データで、2024年3月に欧州で申請済み 2025年度の早い時期の承認を想定

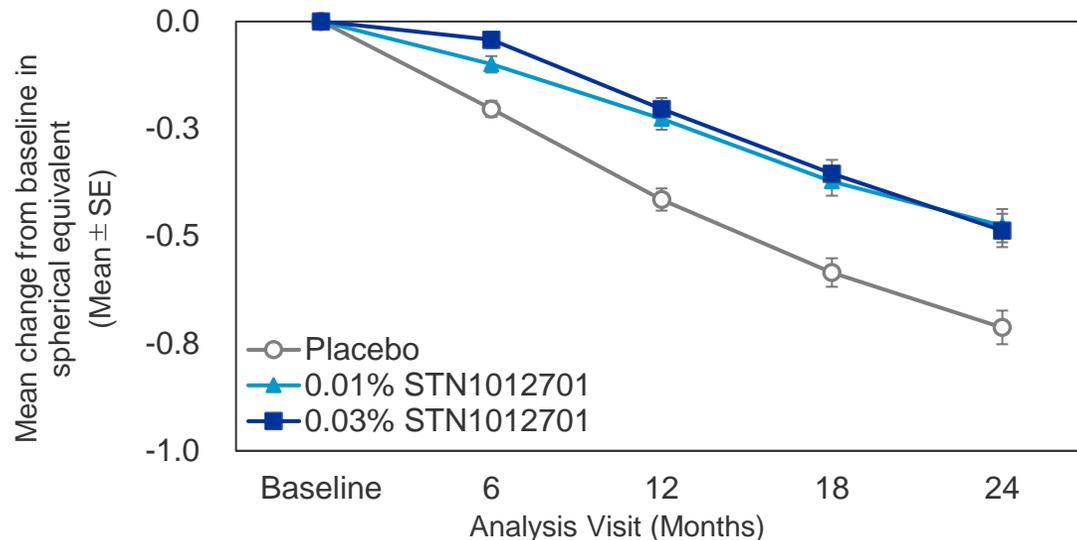
主要評価項目である24か月後における近視の年間進行速度（主要評価項目）、及び24か月後におけるベースラインからの等価球面度数の変化量において、0.01%および0.03% STN1012700（SYD-101）の統計学的に有意な低下が確認された。0.01%および0.03% STN1012701の安全性および忍容性を確認。

## ■ 主要評価項目

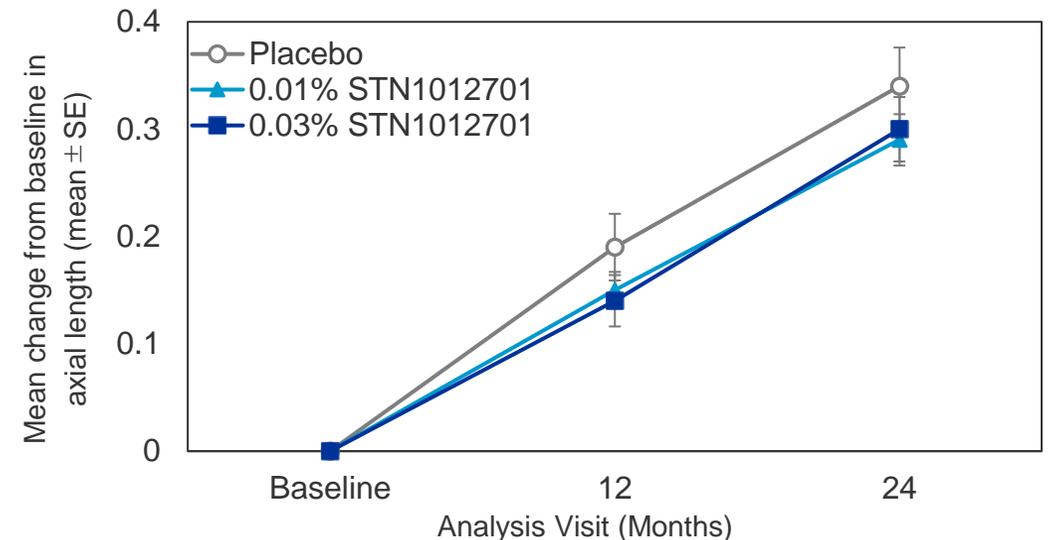
24か月後における年間進行速度（ジオプター/年）

	Placebo	0.01% STN1012701	0.03% STN1012701
LS mean rate	-0.44	-0.31	-0.32
95% CI	-0.50, -0.38	-0.37, -0.25	-0.38, -0.26
P-value	NA	0.0003	0.0009

## ■ 等価球面度数のベースラインからの変化（ジオプター）



## ■ 眼軸長のベースラインからの変化（mm）\*半数以下のサイトでのみ収集



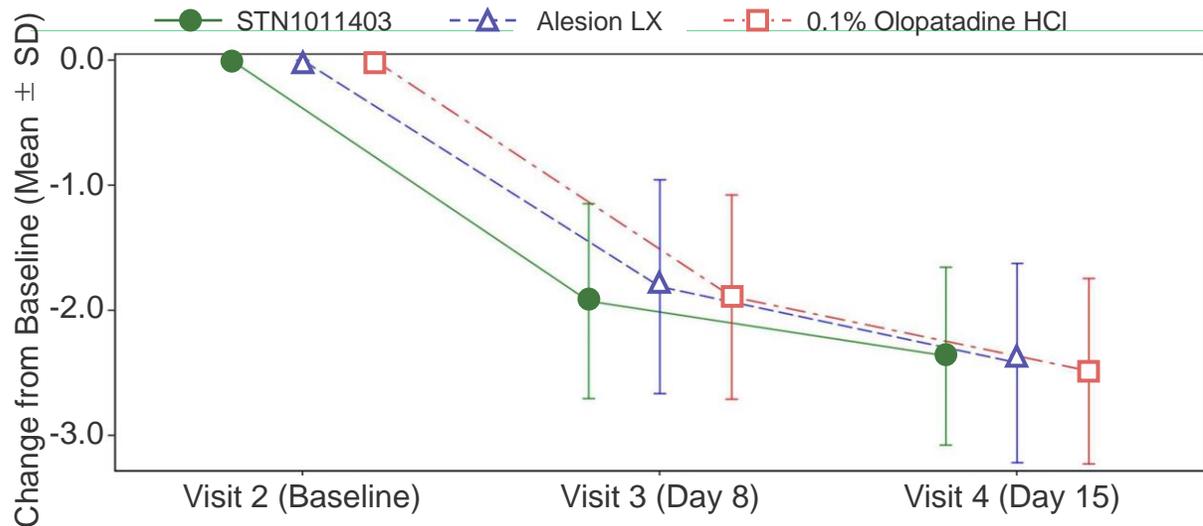
- ◆ 眼軸長において、0.01% および0.03% STN1012701はプラセボに比べ数値的に良好な効果を示した（計画段階で検出力を確保していない）。
- ◆ 最も報告の多かった24か月後において治療中に発現した有害事象（TEAE）は羞明（プラセボ：16.7%、0.01% STN1012701：24.1%、0.03% STN1012701：30.4%）。
- ◆ 本試験（STAR study）は48か月間としてデザインされており、終了は2025年夏を想定。

# 中国向け処方で開発している1日2回点眼のエピナスチン塩酸塩は、ピボタル試験（P3）にて主要評価項目を達成

主要評価項目であるDay 15における眼掻痒感スコアおよび球結膜充血スコアの変化量において、STN1011403はアレジオンLX、および0.1%オロパタジン塩酸塩に対して非劣性を示し、安全性・忍容性も確認された。STN1011403は日本・韓国で販売している1日2回点眼のアレジオンLXの中国向け製剤。

## ■ 眼掻痒感スコア

24時間以内に最も症状が重かった時のベースラインからの変化



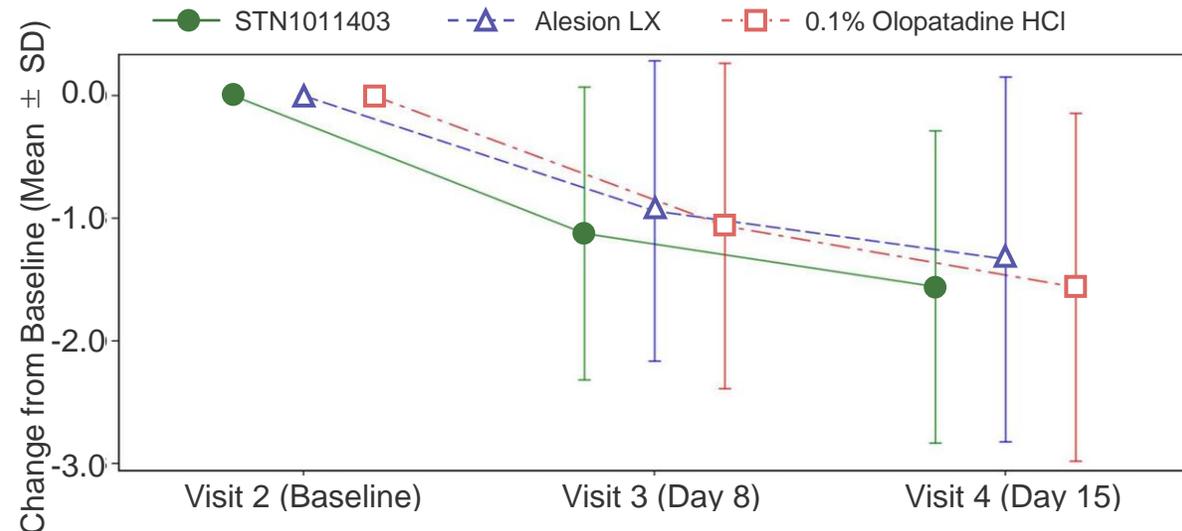
Day 15における最小二乗平均の群間差（95%信頼区間）

	アレジオンLX	0.1%オロパタジン塩酸塩
STN1011403	0.05 (-0.11, 0.21)	0.05 (-0.12, 0.21)

非劣性マージン：0.5

## ■ 球結膜充血スコア

ベースラインからの変化



Day 15における最小二乗平均の群間差（95%信頼区間）

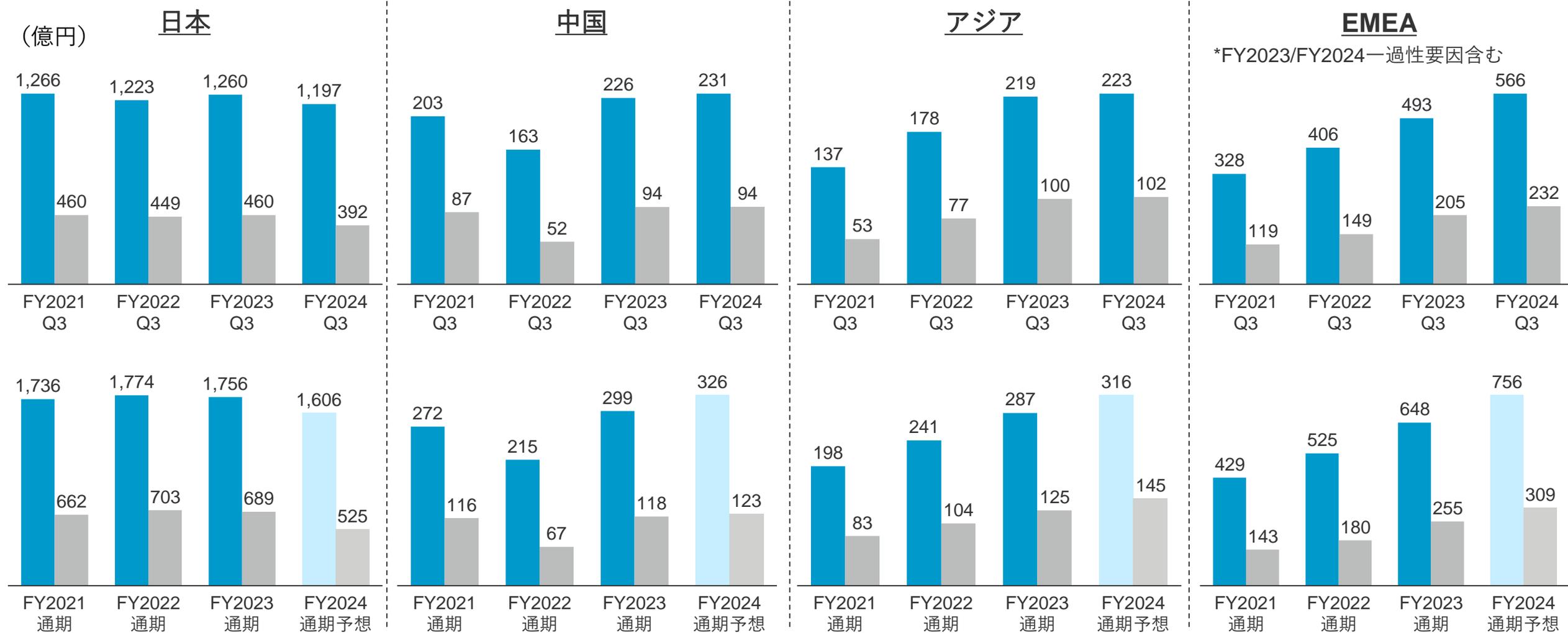
	アレジオンLX	0.1%オロパタジン塩酸塩
STN1011403	-0.10 (-0.24, 0.03)	-0.03 (-0.16, 0.10)

非劣性マージン：0.4

# Appendix

# 地域別売上収益・貢献利益

■ 売上収益 ■ 貢献利益



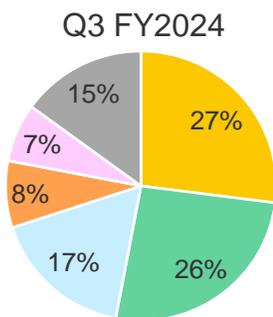
\*FY2023/FY2024一過性要因含む

貢献利益：各地域の売上収益からその地域の売上原価および売上創出に関連する費用を控除したものの。貢献利益の算出には各地域事業に直接貢献する売上収益を用いており、必ずしも仕向地別売上収益と一致していません。2023年度に実施した海外地域の組織変更影響を2023年度/2024年度に反映しています。

# 2024年度第3四半期 仕向地域別売上収益

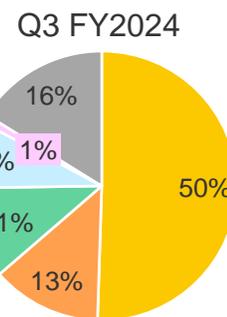
## 連結合計

YTD	Q3 FY2023 (参考)	Q3 FY2024
アイリーア硝子体内注射液 <sup>1</sup>	562億円	603億円
コソプト配合点眼液	192億円	204億円
アレジオン点眼液 <sup>2</sup>	116億円	158億円
その他	1,358億円	1,262億円
合計	2,228億円	2,228億円



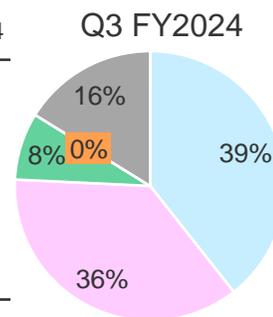
## 日本

YTD	Q3 FY2023 (参考)	Q3 FY2024
アイリーア硝子体内注射液 <sup>1</sup>	562億円	603億円
アレジオン点眼液 <sup>2</sup>	115億円	156億円
ジクアス点眼液(ジクアスLX含む)	164億円	49億円
その他	419億円	388億円
合計	1,260億円	1,197億円



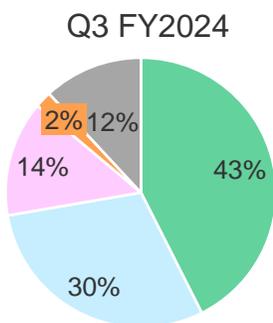
## 中国

YTD	Q3 FY2023 (参考)	Q3 FY2024
クラビット点眼液	70億円	70億円
ヒアレイン点眼液	63億円	67億円
ジクアス点眼液	28億円	21億円
その他	65億円	72億円
合計	226億円	231億円



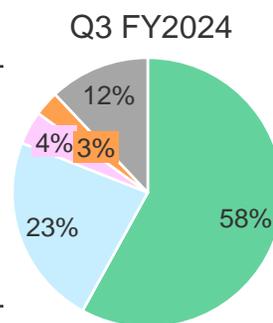
## アジア

YTD	Q3 FY2023 (参考)	Q3 FY2024
コソプト配合点眼液	51億円	53億円
ヒアレイン点眼液	25億円	29億円
クラビット点眼液	27億円	22億円
その他	117億円	119億円
合計	219億円	223億円



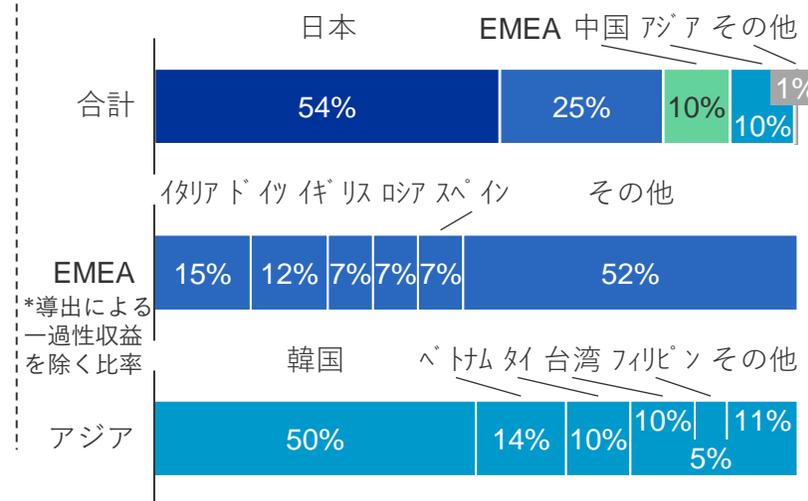
## EMEA

YTD	Q3 FY2023 (参考)	Q3 FY2024
コソプト配合点眼液	109億円	130億円
Ikervis	84億円	68億円
タプロス点眼液	62億円	66億円
その他	238億円	302億円
合計	493億円	566億円



\*導出による一過性収益を「その他」に含む

## 主要国・地域別売上比率 (Q3 FY2024)



■ 眼科用抗VEGF阻害剤 ■ 緑内障治療薬/デバイス ■ 角結膜疾患治療剤 ■ 抗アレルギー点眼剤 ■ 抗菌点眼剤 ■ その他

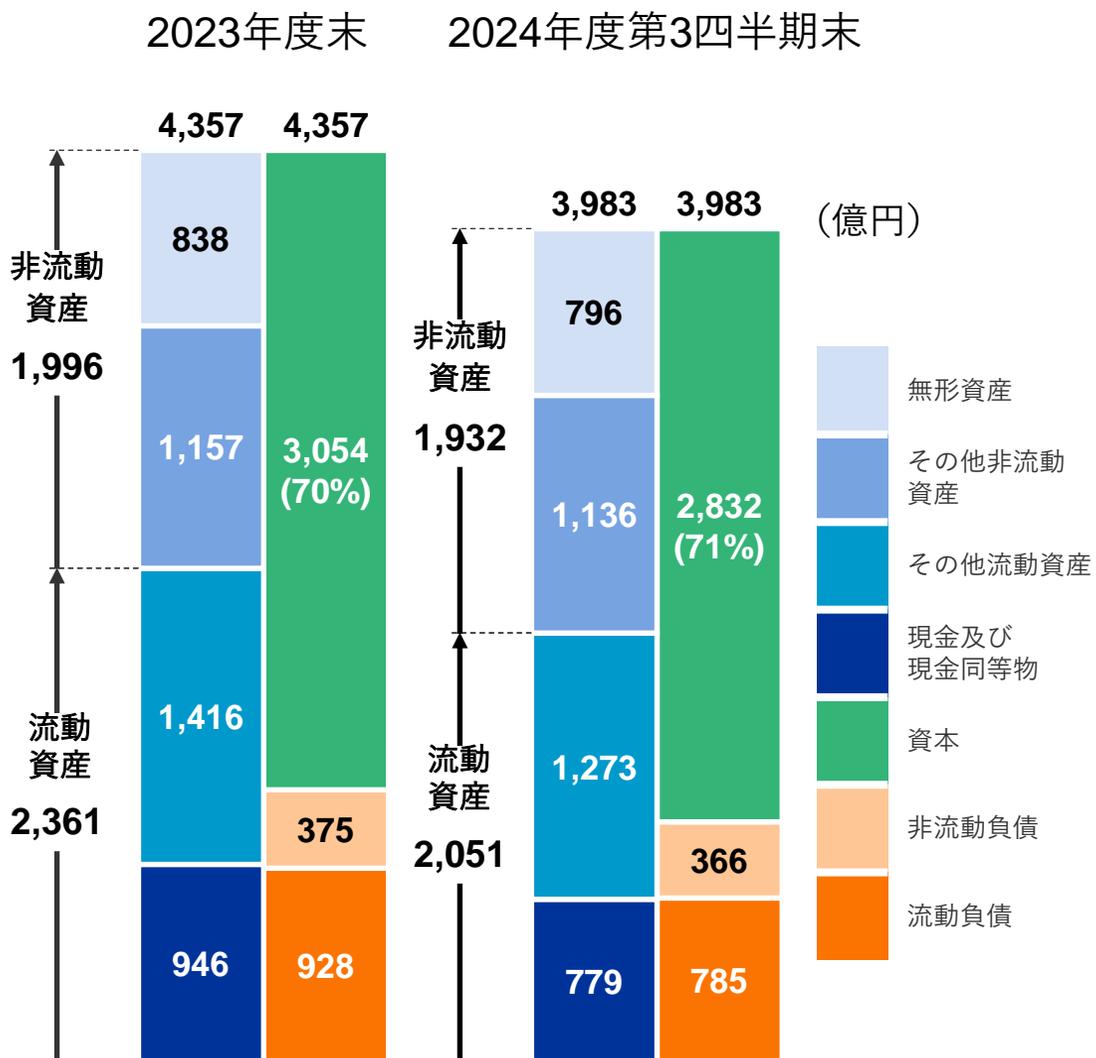
## 選定療養影響：対象品目の売上実績および通期予想（想定範囲内）

対象品目は17品目<sup>1</sup>（濃度違い含む、2025年2月時点）で、日本事業全体に占める比率は5-6%。

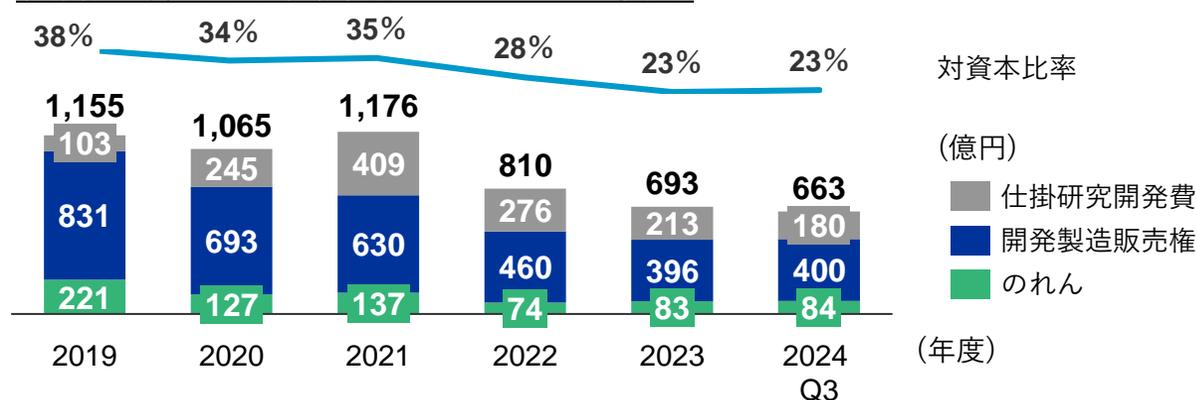
将来的にはジクアスやタプロス、タプロム、アレジオンLXなどの後発品が出ている品目も対象になることを想定（単位：百万円）

品目	領域	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 YTD	FY2024 予想
コソプト <sup>2</sup>	緑内障	5,047	4,039	3,347	814	716	510	2,040	2,111
アレジオン（4回点眼）	アレルギー	4,440	2,987	1,807	219	202	146	568	786
ヒアレイン0.1/0.3 <sup>2</sup>	角膜/ドライアイ	5,800	4,949	4,268	1,031	1,130	915	3,077	3,590
クラビット0.5/1.5	抗菌剤	1,754	1,285	1,126	234	212	127	572	674
チモプトールXE 0.25/0.5	緑内障	3,092	2,807	2,445	434	416	346	1,197	1,550
チモプトール0.25/0.5	緑内障								
アレキサール	アレルギー								
リボスチン	アレルギー								
フルメトロン0.1	その他								
サンテゾーン0.02/0.1	その他								
サンコバ	その他								
ミドリンM	その他								
合計		20,134	16,067	12,994	2,732	2,677	2,045	7,454	8,710
日本事業合計		173,633	177,373	175,608	40,553	38,876	40,231	119,660	160,649
対象品目比率		11.6%	9.1%	7.4%	6.7%	6.9%	5.1%	6.2%	5.4%

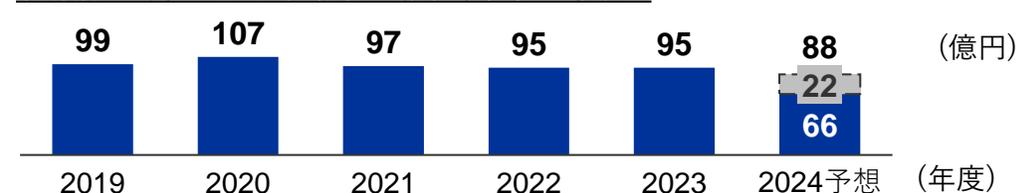
# 財務健全性・安全性を維持。ROE、ROIC改善のため分母圧縮に取り組む



## 製品に係る無形資産・のれんの状況



## 製品に係る無形資産償却費の状況

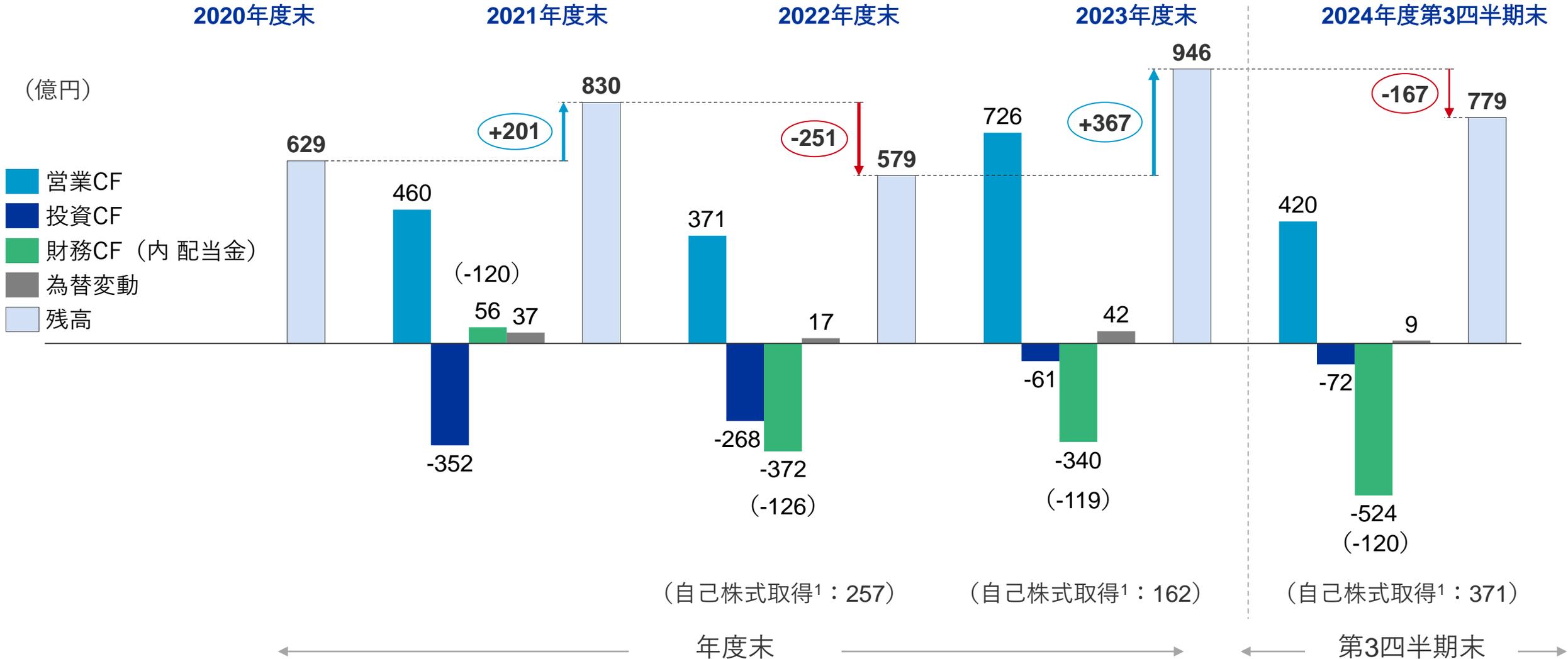


## ROE・コアROE・ROIC

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (予想)
コアROE	12%	12%	11%	11%	16%	14% <sup>1</sup>
ROE	8%	3%	8%	-	9%	11% <sup>1</sup>
ROIC	11%	5%	12%	-	16%	17% <sup>2</sup>

<sup>18</sup> 1 自己株式の取得を含む 2 ファクタリングを含む

# キャッシュ・フローの推移



## 外国為替レート前提と感応度

### 為替レート前提

(円)

	2023年度 通期実績	2024年度 通期予想 (8/6から変更なし)	2024年度 vs 2023年度	2023年度 第3四半期 実績	2024年度 第3四半期 実績	2024年度第3四 半期 vs 2023年 度第3四半期
USD	144.80	155.00	107.0%	143.61	152.63	106.3%
EUR	156.88	165.00	105.2%	155.60	164.96	106.0%
CNY	20.24	21.30	105.2%	20.07	21.33	106.3%

### 為替感応度

2024年度業績予想（8/6）における予想レート比1%円安時の影響  
(億円)

	合計 <sup>1</sup>	USD	EUR	CNY
売上収益	+13	+0.6	+6.6	+3.2
コア営業利益	+2	-0.3	+0.9	+0.6
営業利益 (IFRS)	+1	-0.4	+0.7	+0.5

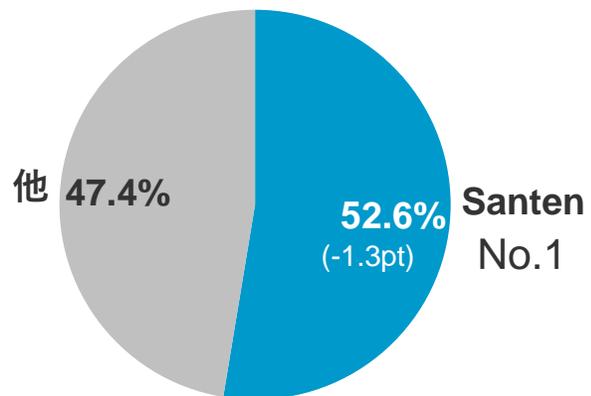
2024年度第3四半期実績為替影響  
(対前期レート) (億円)

	合計
売上収益	+51
コア営業利益	+7
営業利益 (IFRS)	+5

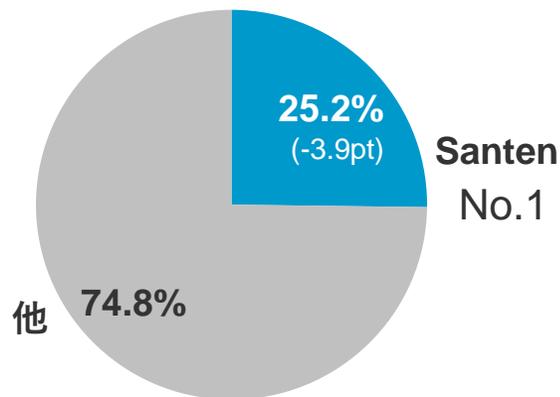
<sup>1</sup> 上記3通貨にその他主要通貨を加えた主要通貨における合計値 (小数点以下四捨五入)

# 国内医療用眼科薬 市場概況 (2024年1月-2024年12月累計)

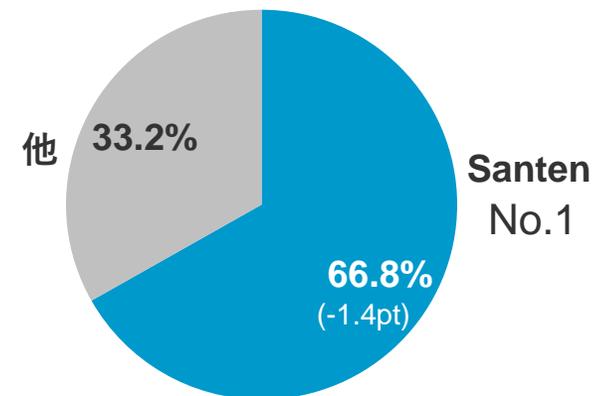
**Total : 3,606億円**



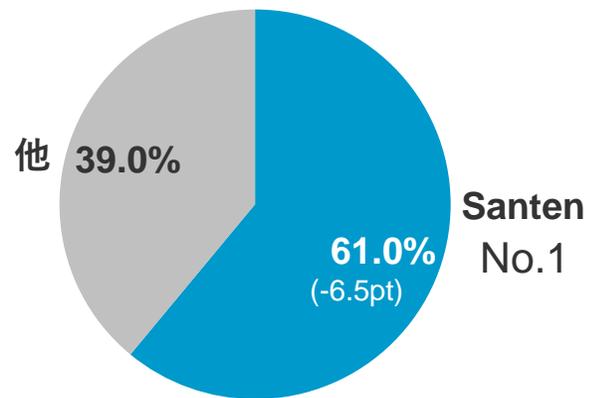
**抗緑内障剤 : 812億円**



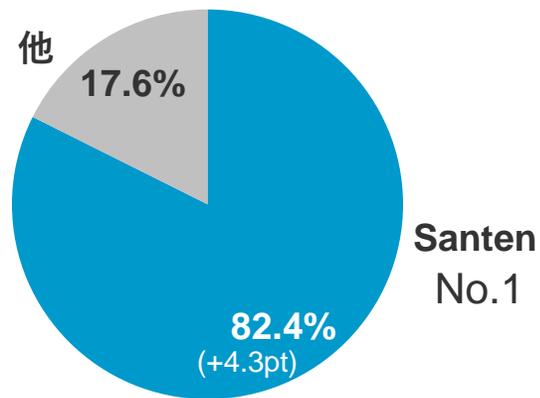
**網膜疾患治療剤\* : 1,406億円**



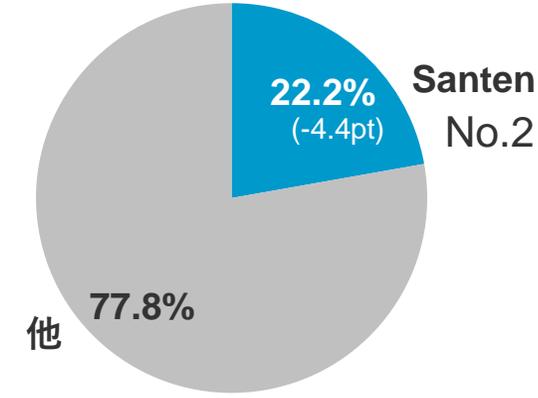
**角膜疾患治療剤 : 340億円**



**抗アレルギー剤 : 502億円**



**抗菌点眼剤 : 58億円**



\*製造販売元であるバイエル薬品(株)とのコ・プロモーション製品(眼科用VEGF阻害剤「アイリニア」「アイリニア8mg」)を含む。販売会社(参天製薬)ベースでの実績。  
 出典: Copyright © 2025 IQVIA. JPM 2023.1-2024.12を基に参天分析 無断転載禁止

## グローバル開発の状況①

## 緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況 <sup>1</sup>	
緑内障	タフルプロスト・チモロールマレイン酸塩 (配合剤) タプコム、タプティコム	STN1011101 DE-111A	中国	現状：申請 計画：2024年度 承認
	オミデネパグ イソプロピル エイベリスミニ	STN1011702	中国	現状：2024年11月 P3開始 計画：2026年度 P3終了
	セペタプロスト	STN1012600 DE-126	米国	現状：P2（主要評価項目達成）
			日本	現状：申請 計画：2025年度 承認
			欧州	現状：P2（探索的試験）終了
	ラタノプロスト Catiolanze	STN1013001 DE-130A Catioprost	欧州	現状：上市
			アジア	現状：2024年11月 申請 計画：2026年度 承認

<sup>1</sup> 試験プロトコールが社内承認されたもののみ記載。

## グローバル開発の状況②

## 緑内障・高眼圧症領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
緑内障	ネタルスジル メシル酸塩 Rhopressa®/Rhokiinsa®	STN1013900 AR-13324	日本	現状：P3（ピボタル試験で主要評価項目達成、長期安全性および有効性も確認） 計画：2025年度 申請
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：上市
	ネタルスジル メシル酸塩/ ラタノプロスト (配合剤) Rocklatan®/Roclanda®	STN1014003  STN1014000 PG-324	日本	計画：2024年度 P3開始
			欧州	現状：上市
			アジア	現状：承認 計画：2024年度 上市

## グローバル開発の状況③

## 角結膜疾患（ドライアイを含む）領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
春季カタル	シクロスポリン Verkazia	STN1007603 DE-076C	中国	現状：承認
ドライアイ	ジクアホソル ナトリウム (持続製剤) ジクアスLX	STN1008903 DE-089C	日本	現状：上市
	オロダテロール 塩酸塩	STN1014100	アジア	現状：韓国で2024年3月に承認を取得したが、2024年8月取下げ
フックス 角膜内皮 ジストロフィ	シロリムス (点眼剤)	STN1010904 <sup>1</sup>	日本	現状：P1/2a（主要評価項目達成） 後期臨床試験に向けて計画策定中
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	STN1010905	米国 フランス インド	現状：P2a 計画：2025年度 P2a終了
マイボーム腺 機能不全	シロリムス (点眼剤)	STN1010905	日本	現状：追加P2a 計画：2025年度 追加P2a終了
アレルギー性 結膜炎	エピナスチン塩酸塩 (眼瞼クリーム)	STN1011402	日本	現状：上市
	エピナスチン塩酸塩 (1日2回点眼)	STN1011403	中国	現状：P3（主要評価項目達成） 計画：2025年度 申請

<sup>1</sup> 当該プログラムはSantenが独占的実施権の行使オプションを保有。本プロジェクトコードは、第Ⅱ相臨床試験終了時にSantenが独占的実施権を獲得した後に附番予定のコードです。

## グローバル開発の状況④

## 屈折異常領域

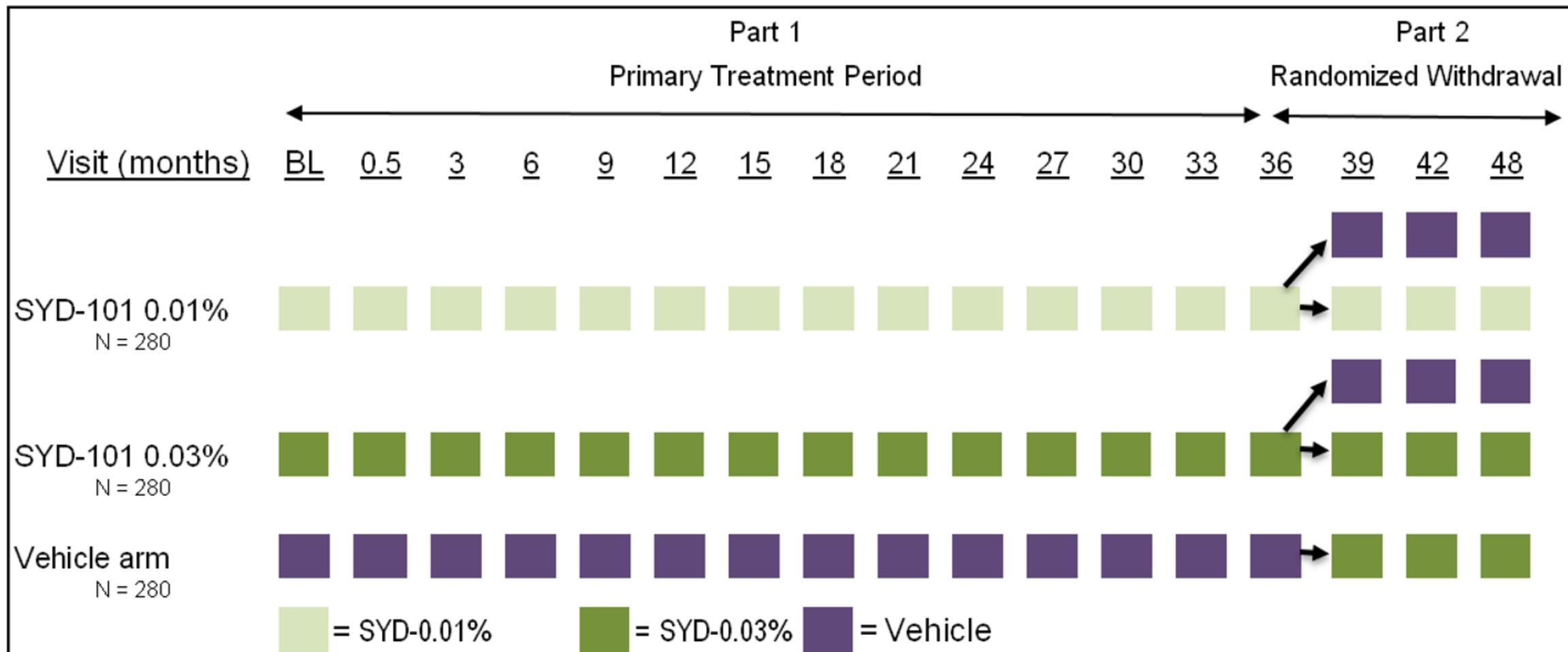
効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
近視	アトロピン硫酸塩 リジュセアミニ	STN1012700 DE-127	日本	現状：2024年12月 承認 計画：2025年度 上市
			中国	現状：P2/3 計画：2026年度 P2/3終了
			アジア	現状：P2（主要評価項目達成） 計画：2025年度 申請
		STN1012701 SYD-101	欧州	現状：2024年3月 申請 計画：2025年度 承認
	AFDX0250BS	STN1013400	日本	現状：P2a 計画：2024年度 P2a終了
			中国	現状：P1（安全性・忍容性を確認済み）

## グローバル開発の状況⑤

## その他の領域

効能・効果	一般名など	開発コード	臨床開発の状況	
			地域	状況
眼瞼下垂	オキシメタゾリン 塩酸塩	STN1013800 RVL-1201	日本	現状：2024年12月 申請 計画：2025年度 承認
			欧州	現状：2024年12月 P3開始 計画：2025年度 P3終了
			中国	現状：P3 計画：2026年度 P3終了
			アジア	計画：2026年度 申請
網膜色素変性症	jCell	STN6000100	—	現状：P3試験計画策定中

## 欧州及び米国でのピボタルP3試験プロトコール（[NCT03918915](https://clinicaltrials.gov/ct2/show/study/NCT03918915)）



本試験（STAR study）は48か月間としてデザインされており、終了は2025年夏を想定。

## 中国でのピボタル試験（P3）プロトコール

中国人アレルギー性結膜炎患者を対象としたSTN1011403の有効性および安全性を評価する第III相多施設共同無作為化評価者遮蔽実薬対照試験



## 重要な注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいています。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。また、当社は本資料の内容を随時更新する義務を負うものではありません。
- リスク要因としては、以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。医薬品行政の動向、社会・経済情勢ならびに法規制の変更、為替などの外部要因。後発品の影響などの競争環境の変化。主力製品への依存、ライセンス製品への依存、原薬供給等の特定の取引先への依存などの特定の製品・取引先等への依存。新薬開発の不確実性、研究開発投資が十分な成果を生まない可能性、他社との提携の成否などの研究開発活動に起因するもの。その他知的財産権、自然災害などに伴う生産の停滞・遅延、販売中止・製品回収等の製品供給に起因するもの、訴訟およびグローバルな事業展開に関わるリスクなど。
- 本資料には、医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料は投資家の参考になる情報の開示を目的としており、投資の投資勧誘や推奨を行うものではありません。投資に関するご決定は皆さま自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は今後予告なく変更されることがあります。本資料の利用にあたっては利用者の責任であり、記載された情報の誤り等を含み本資料の利用によって生じた損害について、当社は一切責任を負うものではありません。

